

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2単位)	3. 科目番号	GELA1107
2. 授業担当教員	安次嶺 隆幸		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コメントペーパーやレポート・論文等の書き方に関する基礎的・基本的事項を理解し説明できるようになる。</li> <li>2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。</li> <li>3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。</li> <li>4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。</li> <li>5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>★ノート指定 ツバメノートA4品番A5008 JAN: 4968796311105 一冊を準備しておくこと。毎回これが出席、課題レポートに使用します。毎回プリント課題を配布しますので、このノートに貼り、授業後に提出します。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p><b>【教科書】</b></p> <p>◇「言葉が伝わる！文書表現のワークブック」(八千代出版株式会社) 山口隆正 編著</p> <p>◇「世界一のクラスをつくる 100 の格言」(明治図書出版) 安次嶺隆幸著</p> <p><b>【参考書】</b></p> <p>「語源でおぼえる！小学校漢字」主体的な学びを実現する漢字学習！(東洋館出版) 安次嶺隆幸著</p> <p>「一瞬で授業に引き込むプロの技」(学陽書房) 安次嶺隆幸著</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コメントペーパーやレポート・論文等の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解しているか。</li> <li>2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 積極的 (発言、討議、発表、取り組み等) 総合点の 40%</li> <li>2 レポート (小課題・コメントペーパー等を含む) 総合点の 60%</li> </ol> <p>上記の他に、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>★授業の視点「書くことは、聴くこと、受け入れること、考えることから始まる！」</p> <p>読むこと、聴くこと、話すこと、そして書くことは人間の本質である。人と協力して生き、社会を形成する生き物である人間にとって、表現能力とは、他者と共生するための能力であり、人と人とが暮らしていくための優しさや明るさや思いやりを含めた能力のことなのである。「書くこと」は「他者に自分の考えを伝えること」である。それは人間の必須のスキルだといえる。</p> <p>★授業の約束</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 座席は指定とする。</li> <li>2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。)</li> <li>3 携帯電話の電源は切るとともに操作しないこと、及び私語は厳禁のこと。</li> <li>4 レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。(遅れた場合は減点です)</li> <li>5 予習をするとともに、教育に関連する図書や新聞記事に関心をもち読むこと。</li> <li>6 教育に携わる専門性を身につける大学生としての自覚と覚悟をもち、その品位を保つこと。</li> </ol> <p>★メッセージ</p> <p>本講座では、書く前に「聴く」、「考える」、「共有する」、「展開する」、「まとめる」という 5 段階の作業を毎授業で行います。これを繰り返すことで、自分の考え、他者の考えを認め合う広い心を育むことができますようになります。また、様々な場面指導での意見交換から自分の思考を磨き、教科書の格言の文章を読み、ポイントを押さえ、「書く力」が自然に習得できます。しっかりと毎回の授業の人の意見を書き込み、取り入れる心を養ってください。それが自分の文章表現になっていきます。また主体的な学びを実現する漢字学習「漢字の語源」についても学んでいきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>本講座の意義、目的、方法について、シラバスの説明、班編成、授業の受け方の説明。自己紹介文の作成と提出。</p> <p>基礎編 第 1 章 文章を正しく書く～教科書①問題</p> <p>課題：世界一のクラスをつくる 100 の格言より①</p>	事前学習	教科書を概観してくる。自己紹介文を考えてくること。
		事後学習	「私の長所と短所」「私の趣味」で 400 字～800 字で作文を書く。

	～⑤について、音読、ディスカッション、要旨を書く。		
第2回	基礎編 第2章 原稿用紙の使い方 教科書②問題 課題：世界一のクラスをつくる100の格言より⑥～⑩について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表できるようにしておく。
		事後学習	「私の高校時代」「アルバイト」「心に残っている言葉」について400字～800字で作文を書く。
第3回	基礎編 第3章 正しい表記を知る 教科書③問題 課題：世界一のクラスをつくる100の格言より⑪～⑮について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表できるようにしておく。
		事後学習	「私が尊敬する人」「私の信念」「出会い」について400字～800字で作文を書く。
第4回	基礎編 第4章 文章作成上の注意点 教科書④問題 課題：世界一のクラスをつくる100の格言より⑯～⑳について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表できるようにしておく。
		事後学習	「余暇の過ごし方」「10年後の自分」「私の人生観」について400字～800字で作文を書く。
第5回	基礎編 第5章 文章の基本的な書き方 教科書⑤問題 課題：世界一のクラスをつくる100の格言より㉑～㉕について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表できるようにしておく。
		事後学習	「私と読書」「私の家族について」「部活動について」について400字～800字で作文を書く。
第6回	応用編 第6章 小論文を書く[1] 教科書⑥問題 課題：世界一のクラスをつくる100の格言より㉖～㉙について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表できるようにしておく。
		事後学習	「子どもに携帯電話を持たせてよいか」「夫婦共稼ぎをどう考えるか」「インスタント食品の功罪」について400字～800字で小論文を書く。
第7回	応用編 第7章 小論文を書く[2] 教科書⑦問題 課題：世界一のクラスをつくる100の格言より㉚～㉞について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表できるようにしておく。
		事後学習	演習の課題について、校正する。
第8回	応用編 第8章 小論文を書く[3] 教科書⑧問題 課題：世界一のクラスをつくる100の格言より㉟～㉛について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表できるようにしておく。
		事後学習	演習の課題について、校正する。
第9回	応用編 第8章 小論文を書く[4] 教科書⑨問題 課題：世界一のクラスをつくる100の格言より㉜～㉟について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表できるようにしておく。
		事後学習	演習1～11で選択した以外から一つ小論文を書く。
第10回	応用編 要約をする 教科書⑩問題 課題：世界一のクラスをつくる100の格言より㊱～㊴について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表できるようにしておく。
		事後学習	自分や他者の小論文を要約する。
第11回	まとめ[レポート・論文の書き方]1「テーマ型①～⑪」	事前学習	レポートの課題について考えてくる。
		事後学習	課題について書くⅠ。
第12回	まとめ[レポート・論文の書き方]2「将来の目標」	事前学習	レポートの課題について考えてくる。
		事後学習	課題について書くⅡ。
第13回	まとめ[レポート・論文の書き方]3「過去の経験」	事前学習	レポートの口頭発表原稿を完成する。
		事後学習	口頭発表会1のリハーサルをしてくる。
第14回	レポートの口頭発表会1・評価・交流「10年後の自分」or「学生時代に力を入れたこと」	事前学習	評価項目について考えてくる。
		事後学習	自己評価、他者評価を踏まえて校正する。
第15回	レポートの口頭発表会2・評価・交流「10年後の自分」or「学生時代に力を入れたこと」	事前学習	口頭発表会2のリハーサルをしてくる。
		事後学習	15回のまとめを書く。